

令和3年 WCS「夢あおば」栽培こよみ

高岡農林振興センター氷見班
JA氷見市営農販売課

■栽培のポイント

- ①種子消毒の徹底
- ②円滑な収穫作業に向け、溝掘りと中干しを的確に実施
- ③いもち病をはじめとする病害虫、雑草の徹底防除
- ④地力維持に向け、収穫後に堆肥とケイ酸質資材の施用

月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
時期			5/1~5		7/5	7/27	8/10		
生育			田植え			幼穂形成期	出穂期	乳熟期	
水管理			深水	浅水					
主 要 作 業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 種子消毒(モミガードC水和剤を使用) ○ 比重選の実施(硫安2.5kg/水10ℓ) ○ 浸種、催芽 ○ 播種(箱当たり播種量150g) ○ 苗箱施薬剤を施用(ルーチンブライト箱粒剤) 	<p>出芽揃いが悪いので長めに浸種を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 栽植密度70~80株、必要苗箱数20~23箱/10a) ○ 適正基肥量の遵守(別表①参照) ○ 適期に除草剤を処理(別表②参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 溝掘り、中干しを行い、地耐力を確保 ○ 適宜、除草剤を処理(別表②参照) ○ 溝の手直しを行い、灌排水を促す ○ 葉色が4.5を下回る場合は直ちに追肥(窒素3kg/10a) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 畦畔草刈の実施(カメムシ対策) ○ 出穂〜穂揃期に斑点米カメムシ類防除を必ず実施(別表③参照) ○ 走り穂の頃から落水し、田面を固める 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 乳熟期以降に収穫 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 後すみやかに、ラウンドアップによる雑草防除を行う。 ○ 多年生雑草(オモダカ等)の発生が多い場合は、再生し、耕起(稲ワラ持出分の補給、再生稲の処理) ○ 10aあたり牛糞堆肥1.5tとケイ酸質資材100kgを必ず施用 			

■別表③【主要害虫防除】 ※必ず出穂～穂揃期に防除を！

対象害虫	登録農薬名	使用時期
斑点米	スタークル粉剤 DL	収穫7日前まで
カメムシ類	ダントツ粒剤	収穫7日前まで

※農薬の使用時期については、予め指導機関から確認する。

※本田でいもち病やその他の病害虫の発生が多く見られた場合は、早めに指導機関に相談する。

■県外産種子の取り扱い

県外産種子は、農薬に耐性があるいもち病菌やばか苗病の高濃度汚染された種子が含まれる可能性が高いので、病害をまん延させないため以下を厳守する。

- ・播種までは以下の方法で実施

比重選 → モミガードC水和剤での種子消毒 → 播種時のダコレート水和剤灌注

- ・使用厳禁薬剤：アミスター、オリブライト

令和3年 WCS「コシヒカリ（移植）」栽培こよみ

高岡農林振興センター氷見班
JA氷見市営農販売課

■栽培のポイント

- ①盆前に収穫するため、4月下旬に田植えを行う。
- ②円滑な収穫作業に向け、溝掘りと中干しを的確に実施
- ③いもち病をはじめとする病害虫、雑草の徹底防除
- ④地力維持に向け、収穫後に堆肥とケイ酸質資材の施用

月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
時期		4/25~30			7/7	7/29	8/12	
生育		田植え			幼穂形成期	出穂期	乳熟期	
水管理		深水	浅水					
主要作業	<ul style="list-style-type: none"> ○種子消毒(テクリードC水和剤) ○浸種、催芽 ○播種(箱当たり播種量120g) ○育苗(箱当たり播種量120g) ○苗箱薬剤を施用(ルーチンブライト箱粒剤) ○栽植密度60株、必要苗箱数18箱/10a ○適正基肥量の遵守(別表①参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ○適期に除草剤を処理(別表②参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ○溝掘り、中干しを行い、地耐力を確保 ○適宜、除草剤を処理(別表②参照) ○溝の手直しを行い、灌排水を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ○畦畔草刈の実施(カメムシ対策) 	<ul style="list-style-type: none"> ○必ず実施(別表③参照) ○出穂〜穂揃期に斑点米カメムシ類防除 ○走り穂の頃から落水し、田面を固める 	<ul style="list-style-type: none"> ○乳熟期以降に収穫 	<ul style="list-style-type: none"> ○多年生雑草(オモダカ等)の発生が多い場合は、再生後すみやかに、ラウンドアップによる雑草防除を行う ○10a当たり牛糞堆肥1.5tとケイ酸質資材100kgを必ず施用し、耕起(稲ワラ持出分の補給、再生稲の処理) 	

■別表①【基肥】 ※土壌条件や生育状況により施肥量を加減する。

肥料名	窒素成分	施用量	施用窒素量
Jコートコシヒカリ2号	21% (うち、基肥8.4%、つなぎ肥12.6%)	25kg/10a	5.25kg/10a

■別表③【主要害虫防除】 ※必ず出穂〜穂揃期に防除を！

対象害虫	登録農薬名	使用時期
斑点米	スタークル粉剤 DL	収穫7日前まで
カメムシ類	ダントツ粒剤	収穫7日前まで

※農薬の使用時期については、予め指導機関から確認する。

※本田でいもち病やその他の病害虫の発生が多く見られた場合は、早めに指導機関

■別表②【雑草防除体系】

	登録農薬名	使用量(10a)	使用時期
1回目	ウィナー1 [※] 粒剤 51	1kg	移植時〜ル [※] 2.5葉期 [移植後30日まで]
	キクトモ1 [※] 粒剤	1kg	移植時〜ル [※] 2.5葉期 [移植後30日まで]
2回目	クリンチャー1 [※] 粒剤	1kg	移植後7日〜ル [※] 4.0葉期 [収穫30日前まで]
		1.5kg	移植後25日〜ル [※] 5.0葉期 [収穫30日前まで]
	バサグラン粒剤	3~4kg	移植後15~50日 [収穫60日前まで]
	バサグラン液剤	500~700ml	移植後15~50日 [収穫50日前まで]
	クリンチャーEW	100ml	移植後20日〜ル [※] 6.0葉期 [収穫30日前まで]

※雑草の発生が十分に抑制できないと予想される場合は、早めに指導機関に相談する。